

## 研究論文

# 中国における高級中学日本語教師の 養成・研修の現状と質保証 — 陝西省榆林市の事例 —

郭巧瑞<sup>1</sup>（陝西師範大学大学院 院生）・井手弘人（長崎大学教育学部）・

曹婷（陝西師範大学外国語学部）

### はじめに— 陝西省榆林市における高級中学<sup>2</sup>日本語教育の発展

近年、中国における大学入試での外国語科目として、英語が苦手な生徒に日本語を受験させるべく、日本語クラスを開設する学校が増えている。陝西省榆林市<sup>3</sup>においては、2018年に民弁<sup>4</sup>の榆林華棟高級中学が榆林市で初めて日本語課程を設置した。その後、2019年に公立高級中学である、芸術系専攻の生徒が多い榆林市第二高級中学も日本語課程を設置した。その後、榆林市においては民弁高級中学や公立高級中学が相次いで日本語の課程を設置している現状にある。現在、榆林市内で日本語教育を行っている高級中学は民弁高級中学3校と公立高級中学4校のあわせて7校である。これらの高級中学は大学入学試験で英語の苦手な生徒が代わりに日本語を勉強し、より良い成績を取ることを目指している。中国における高級中学日本語教育の歴史が長い東北地方や沿岸地域と比べ、西北部における陝西省榆林市が高級中学日本語教育を行ってきた経験は短く、日本語教師の募集・研修制度を含め不足な部分がありながらも、この5年間で少しずつ発展して

<sup>1</sup> 長崎大学大学院教育学研究科特別研究学生（学術交流協定に基づく交換留学生）

<sup>2</sup> 「高級中学」とは日本の高等学校に相当する。

<sup>3</sup> 陝西省（せんせいしょう）は中国のほぼ中央、内陸部に位置する省である。面積は約20万5000平方キロ（日本の本州より少し小さい程度）、人口は約3800万人で省都は西安市（約1000万人）。榆林（ゆりん）市は同省北部にあり、人口338万人の都市である。

<sup>4</sup> 「民弁」とは日本でいう私立学校のことを指す。

きた。

本研究では今後の日本語教育の発展・充実を図るための基礎研究として、7校の高級中学の現場に勤務する日本語教師を研究の対象としてアンケート調査とインタビューを行い、榆林市における高級中学日本語教師の養成・研修の現状と質保証の実態を調査した。具体的には、教師の基本的な情報、大学養成段階での状況、入職前の参入状況、入職後のトレーニングと研修といった四つの側面から質問項目を設定し、アンケート調査を実施した。「問巻星」というオンライン・アプリを活用して7校27人の日本語教師にアンケートを配布し、24件回収した（有効件数は24件）。さらに、アンケート調査に参加した教師6人にインタビューを行い、日本語教師の養成・研修に関する詳しい情報を得ることとした。

## 1. 高級中学7校の日本語教師の大学段階における養成過程状況

### 1-1. 日本語能力の証明資格取得の状況

アンケートにこたえた教師の95%は大学在籍時、日本語専攻である。そのほか、日本語専攻ではないが、日本で生活、仕事や留学をしていた人、または日本語能力試験（JLPT）で資格証を取った、等の過程を経て高級中学日本語教師になった人が5%程度存在している。国際交流基金が2018年に行った調査によると、大学入学試験における日本語科目の到達目標は、「読解・文法」が日本語能力試験N2程度で、「聴解・作文」は同N3程度である【1】ことから、高級中学日本語教師としてはN2以上の日本語能力を備えなければならないということもできよう。アンケート調査の結果では、同試験のN1資格をもつ教師は70%を占め、N2は15%であった。一方で、それ以下または資格証を持っていない教師も15%を占めている。

## 1-2. 基礎的な教育知識と日本語教授知識の習得現状

アンケートでは大学での専攻の種類（師範類専攻、教育類専攻、非師範・非教育類専攻）についてもきいてみた。師範類および教育類専攻の教師はわずか15%にすぎず、非師範・非教育類専攻の教師が85%にも達している。大学で教育学や教育心理学等に関する知識を学んだことのない日本語教師は75%もいる結果が出た。入職トレーニングや自己学習で日本語教授法や高級中学の日本語課程標準<sup>5</sup>に触れたことのある教師は50%程度である。約半数の日本語教師が日本語を教えるにはいるものの、日本語教授法や高級中学日本語課程標準に関する知識を知らないまま日本語教師となっていることがわかった。インタビューで「大学で基礎的な教育知識と日本語教授の知識を受けたことがありますか。」という質問に対して、ほとんどの日本語教師が大学で日本語（文法、会話、読解、作文など）、日本文化、歴史や文学などの日本語専攻の知識を学んだものの、教育に関する知識や教育心理学、日本語教授法の知識を学んだことがないと答えている。

## 1-3. 卒業実習の経験

卒業にあたっての現場実習（「卒業実習」）経験についてきいたところ、中国における日本企業や工場での通訳、日本でのインターンシップ、教育、そしてとくに日本語には無関係の職場で、卒業実習に参加していることがわかった。その中で教師に関する職場で卒業実習をしていた人は29%を占めている。卒業実習のほか、教育会社でのアルバイト経験などがあつた教師もおり、それを加えると、入職前に何らかの教育活動に参加したことがある教師は54%を占めていた。

以上の結果から見ると、高級中学日本語教師の多くが日本語専攻出身者で、日本語能力も保証できる半面、基礎的な教育知識や日本語教授に関する知識、教育実践に関する学習経験が足りないという状況にあるとすることができる。

---

<sup>5</sup> 「課程標準」は、日本の学習指導要領に相当する。

## 2. 入職前の質保証——高級中学日本語教師資格証の取得

中国で2000年に発布された『教師資格条例』実施方案」では「中国公民は各級各類の学校とほかの教育会社で正規に教育教學の仕事を担当する場合、教師資格を持つことが必要である」（第三条）とされている【2】。『中華人民共和国教師法』によると、高級中学の教師になるには学士とそれ以上の学歴が必要となっている【3】。アンケートの結果では、日本語教師の入職前の学歴は学士が90%、修士が10%であり、教師全員が『中華人民共和国教師法』で規定されている学歴に達していた。

「日本語」などの科目について試験設置に対する需要が強いことから、2017年、『教育部教師工作司による小中等学校教員資格試験における「心理健康教育」等の学科増加に関する通知』（教師司函〔2017〕41号）によって、同年後半より一部の省と市に対し、試験的に教師資格試験に初級中学<sup>6</sup>・高級中学教諭向けの「日本語」を追加すると示され、同試験において筆記試験と面接試験が設定されることになった。日本語教師資格試験では、筆記試験による「総合素質」「教育知識と能力」についてはほかの科目と同じだが、「日本語教科知識と教授能力」が面接と合わせて課されることになっている。面接試験は指定された省（区、市）に属する師範大学によって出題・実施することになっている。【4】

高級中学日本語教師資格の取得状況についてアンケートで確認した結果、現在、高級中学日本語教師資格証を持っている日本語教師は65%を占め、そのうち、入職前に資格を取った人は20%、入職後の取得が45%、35%の教師がまだ取得していないという状況である。すなわち、80%の日本語教師は入職前、教師資格証を持たずに高級中学の日本語教師になった、ということになる。

---

<sup>6</sup> 「初級中学」は、日本における中学校に相当する。

さらに、日本語教師の資格証試験の準備過程について詳しい状況を聞いてみたところ、筆記試験の実質的な準備時間は2週間ぐらいだったと答えている教師が多い。筆記試験の準備は、1) 主に教育会社が出版した「総合素質」と「教育知識と能力」に関する本やオンライン授業などの試験の学習資料を買って自分で勉強する、2) 近年の出題問題を練習する、といったような学習をするのが普通のようなものである。面接の準備期間は3日間－1週間程度かかったと答えている教師が多い。普段は中国語で授業をしており、決まった授業の流れがないので、準備の重点は1) 模擬授業の出題内容である文法や読解などの教え方を日本語で練習し、それぞれの教授用語を把握する、2) 日本語で授業をするときの流れや教授用語を練習し、把握する、といった二つの面に置いていたようである。

日本語教師の質保証について、高級中学日本語教師資格試験がどのくらい役に立っているのかについて調べてみた。大学で教育学、教育心理学等に関する知識を学んだことのない高級中学日本語教師は75%もいる。これらの教師にとって、教師資格試験が教育知識に触れる初めての機会である。「教師資格試験を準備する学習は教師の仕事に役に立っているか」という質問に対して、「明らかな効果がある」「非常に効果がある」と答えた教師は50%を占めている。インタビューで詳しく聞いた結果、1) 短時間で多くの内容を暗記し合格したから、その後はほとんど忘れてしまっているので何の効果もない、2) この試験をきっかけに、もっと教育知識を勉強して自分の仕事を柔軟にさせる必要があると感じたから、自分で体系的に勉強していく可能性もある、3) 少しは教育知識を理解することができたが、短時間で教育原理や基礎的な教育知識を体系的に把握するには無理がある、といった話が出た。以上の調査から見ると、日本語教師資格試験への2週間程度の準備で幅広い試験内容を準備するのは短時間の「追い込み」にすぎず、短期間で教育知識を把握し、普段の教授の過程に統合・応用することは困難である、とすることができるだろう。

教師募集において、教師資格証がそれなりの質保証的な役割をもっているかについて調べたところ、教師公募で教師資格証が必要な条件として審査されたと答えた人は35%しかいない。インタビューで詳しい状況を聞くと、以下のような答えがかえってきた。

- 1) 卒業時（この対象者の場合2018年）、国家教師資格試験で高級中学日本語科目が設置されたばかりで、日本語教師を募集する高級中学がその資格証の存在自体を知らず、採用の条件として教師資格証を課していなかった。一方、日本語教師に対する量的な需要が大きかったため、教師資格の有無はそれほど重視されていなかった。
- 2) 今は多くの高級中学が採用の条件として教師資格証を要求するようになったが、募集の中では教師の学歴が重視されているので、有名な大学または大学院生であれば、教師資格証の有無は問題とされていない。
- 3) 教育局が公務員の教師を募集する場合は、高級中学日本語教師資格証が必要な条件となっている。

## 2-1. 入職トレーニングと研修段階における日本語教師の質保証現状

現在、この7つの高級中学の日本語教育は、おおまかに高級中学と教育派遣機関が協力して行っている公立高級中学、独自に設置している民弁高級中学の2つの場合に分けることができ、それぞれの高級中学における日本語教師の質保証は異なっている。

### 2-1-1. 教育派遣機関と協力する高級中学における日本語教師の質保証

表1のとおり、公立高級中学における日本語教師は主に教育派遣会社によって募集され、高級中学に派遣されているが、教育局によって直接募集された教師も

いる。

表 1 公立高級中学における日本語教師の人数

公立高級中学					
高 校 名 <sup>7</sup>	二中	実験中	十二中	三中	総計
在職教師の人数	10	3	4	1	18
募集 機関	教育局	1	1	1	4
	教育派遣会社	9	2	3	—

(a) 教育派遣会社によって募集された日本語教師の質保証

表 1 に示しているように、三中の以外の公立高級中学は教育派遣会社と協力した日本語教育を行っている。これらの高級中学において、日本語の生徒は教育派遣会社によって高級中学内で宣伝会議を開き、募集される。日本語クラスは高級中学によって組織され、日本語の授業は英語と同じように設置されている。

表 2 教育派遣会社と協力する高級中学における各部門の役割

	役割
教育派遣会社	日本語生徒の募集、宣伝会の組織と発言 教師の募集、入職トレーニング、教師の考課 定期的な研修の組織、研修内容の準備、研修の考課 教授計画の制定、教授用の教材、資料、講義の提供
高級中学	日本語クラスの組織と管理 日本語授業の設置
派遣された 日本語教師	授業をすること 会社の研修に参加すること 会社に仕事の状況を報告すること

教育派遣会社によって募集された日本語教師は、今回の調査では 14 人が該当する。これらの教師は教育派遣会社によって入職トレーニング、職後の研修、考課などを行い、管理されている。教育派遣会社は教授計画を制定し、教授用の教

<sup>7</sup> 略称されている各高級中学の名称は以下のとおり。「二中」…榆林市第二高級中学、「実験中」…陝西榆林実験高級中学、「十二中」…榆林市第十二中学、「三中」…榆林市第三中学

材、資料、講義を教育現場の教師に提供し、教師が決まった教授内容に従って授業をしている。そして、教育派遣会社によって研修を組織し、研修の内容、資料などが提供され、教師が会社に規定された研修活動に参加している。それに対し、教育派遣会社が高級中学に協力を求め、日本語生徒を募集するとき、大学入学試験で獲得した成績を宣伝の目玉となるため、教師の評価として生徒の成績が最も重視されている要素である。

また、教育派遣会社による日本語教師の募集プロセスには模擬授業と面談がある。模擬授業は授業の流れの順調さ、授業管理能力、板書、知識をはっきり学生に伝えたかどうかなどの面から採点し、合格ラインが設置されている。面談は日本語教授の経験、大学入試を受験する高級中学3年生を教えた経験の有無、教授実践能力などの面が重視され、よく聞かれているようである。面接官は豊富な日本語教授経験のある教師によって構成されている。

入職トレーニングは面接の評価結果によって異なる。1) 教授経験のある教師はオンラインで入職トレーニングに参加する。企業の文化、給料制度、『高級中学日本語課程標準』、日本語教科の知識内容のあらましを1週間ぐらいで紹介され、試用期間はない。2) 教授経験のない新人教師は、会社で授業の演習を中心とした入職トレーニングに参加する必要がある。個人の状況によって1-3カ月のトレーニングを受ける。その後、高級中学に派遣し、入職してから3カ月の試用期間があり、毎月試験での平均成績によって評価され、正社員になる。

職後の研修は主に教育派遣会社によって以下のような内容が行われている。1) 教育派遣会社内でグループごとに模擬授業を行い、評価し、授業内容を改善させる(いわゆる「磨課会」)。2) 高級中学3年生の教師が作文、読解などの教え方をほかの教師に伝え、共有する(いわゆる「シェア会議」)。3) 月に1回、教師が授業を録画し、会社によって授業の質を評価する。

教育派遣会社における日本語教師の募集、入職トレーニング、定期的な研修な



どの質保証システムは比較的完備されていると言える。

### (b) 教育局によって募集された日本語教師の質保証

4つの公立高級中学には、教育局によって募集された高級中学日本語教師が4名いる。募集の形式は公務員教師と契約制教師の2種類ある。今までの教育局の教師募集は一般的には公務員教師である。応募者の学歴に対する要求が高く、国家に直属する6つの師範大学<sup>8</sup>の学士もしくは修士学歴の取得者しか応募する資格がない。そして、学歴証、教師の資格証なども厳しく審査されている。応募の流れは資格審査、模擬授業、健康診断の三つであるが、近年、政策方針が変更され、契約制教師の採用を奨励されるようになり、学歴に対する要求に弾力性をもたせ、教師の経験を重んじるようになった。一般的には教育局によって募集された教師は教育局によって管理され、入職トレーニングと定期的な研修が行われているが、榆林市の場合、高級中学日本語教育が最近発展をはじめたばかりなので、日本語教師に対する専門的な入職トレーニングと定期的な研修はほとんどないのが実態である。

## 2-2. 民弁高級中学における日本語教師の質保証状況

表3のとおり、民弁高級中学において高級中学内での日本語生徒の募集とクラスの組織は、各高級中学によって行われている。日本語教師も各高級中学によって募集されている。ここでは榆林華棟高級中学を代表に日本語教師の入職トレーニングや研修の状況を紹介する。

---

<sup>8</sup> 陝西師範大学（陝西省）のほか、北京師範大学（北京市）、華東師範大学（上海市）、東北師範大学（吉林省）、華中師範大学（湖北省）、西南大学（重慶市）である。

表 3 民弁高級中学における日本語教師の人数

民弁高級中学				
高級中学 <sup>9</sup>	華棟中	九中	高専附中	総計
在職教師の人数	5	2	2	9人
教師募集機関	各高級中学			

表 4 民弁高級中学における各部門の役割

	役割	
	発展初期	現在
高級中学	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語クラスの組織</li> <li>日本語教師の募集、管理、考課</li> </ul>	
教師グループと研修組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師が1-2人のみなので、英語の教師グループによって管理</li> <li>日本語科目に関する専門的な研修がないため、英語の教師と一緒に研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師の人数が5-8人に達したため日本語教師グループを成立させ、日本語教師を管理</li> <li>日本語グループで一緒に教授計画を制定し、教授用の教材を決め、分業で講義や資料を作成</li> <li>日本語グループ内で研修を組織し、研修内容、資料を準備</li> <li>日本語グループ内で相互に授業を聞き、評価</li> </ul>
日本語教師個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語生徒を募集する宣伝会議で発言</li> <li>日本語クラスの管理</li> <li>日本語教師が自分で教授計画を制定し、教授用の教材を選び、教授用の講義や資料を作成</li> <li>自分で英語の教師の授業を聞き、経験を積む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語生徒を募集する宣伝会議での発言</li> <li>日本語クラスの管理</li> </ul>

榆林華棟高級中学は 2018 年に日本語教育を開始した。榆林市で日本語課程を

<sup>9</sup> 各高級中学の名称は次のとおり。「華棟中」…榆林華棟高級中学、「九中」…榆林市第九高級中学、「高専附中」…陝西榆林高専附属高級中学

設置した初めての高級中学である。はじめは以下のようなことがあって日本語教師の募集条件がはっきりしていなかった。1) 日本語教師に対する需要が強かったが、西北部に属する榆林市で日本語教師を募集するのが困難であったため、日本語教師応募者に対する学校側からの要求が低い、2) 高級中学日本語教師資格試験は 2017 年後半から始まったばかりで、高級中学日本語教師資格証の存在自体が知られておらず、日本語教師に対する高級中学日本語教師資格証と日本語能力証明書の審査がほとんどなかった、3) 面接官は高級中学の管理者、校長、英語の教師によって構成されていたため、日本語教師を判断する基準に熟知していない状態であった。

募集は試験筆記試験、模擬授業、面談の三つでの評価がある。筆記試験は近年の大学入学試験の出題を筆記試験の内容としている。当初は模擬授業での教師の表現が最も重視されていた。日本語の流暢さ、日本語教科の知識を簡潔な説明で学生に伝えているかどうかなどの面から判断されていた。面談で教師の性格や大学での経歴などもよく聞かれていた。しかし近年になって、面接官の中に日本語教師も必要な部分として加入し、日本語能力証明書 N1、N2、そして、高級中学日本語教師資格証も募集条件として要求するようになっている。

華棟高級中学において教師の入職トレーニングはないが、試用期間で高級中学の教授モデルや学校の決まった教授法を学び、大学入学試験における近年の日本語科目の出題を練習し、英語などの科目の授業を受講し、報告を書くといったような学習がある。試用期間が終わり、実践授業を通じて評価された後、正式な教師になる。教師に対する需要の状況によって試用期間を短縮したり、キャンセルしたりする場合も多い。

表 4 のとおり、初期の頃は日本語教師の人数が 1-2 人しかおらず、宣伝会議での発言、日本語生徒の募集、日本語クラスの管理、教授計画の制定、教授用教材の選定、教授用の講義や資料の作成といった仕事は、少ない日本語教師にほとん

ど任されていた。日本語教師個人の負担が重く、経験豊富な日本語教師もいなかったため、英語の教師によって管理され、研修に参加し、指導を受けていた。民弁の楡林華棟高級中学の日本語教育の初期段階では、日本語教師個人が大きな役割を果たしていたとすることができるだろう。日本語教師の年齢を調べたところ、23歳－30歳の教師が83%を占め、ほとんどが若い教師である。高級中学日本語教師としての経歴も短く、経歴が3年間以内の教師が60%、5年以上の教師の割合は15%しかない。これらの日本語教師は新人教師でありながら、体系的な入職トレーニングや研修などの成長ルートが提供されていなかったが、それに比して幅広い仕事内容を任されている。その一方、日本語課程の開設は、大学入学試験で良い成績を獲得させることが主な目標とされているから、教師に対する成績への期待は高い。それゆえ、初期段階では日本語教師は普段の授業の積み重ねのほか、オンラインの日本語授業を見て自分で学習し、他の科目の教師に指導を求めてきた、というのが主な成長ルートである。

現在、華棟高級中学の日本語生徒の増加により、日本語教師も5－8人に達している。日本語教師グループが成立し、教授用の教材が定まり、教授計画の制定、講義や資料の作成などの仕事内容が分業で行われるようになった。研修は日本語グループ内で組織し、研修内容、資料を準備する。そして、月に一回日本語グループ内で相互に授業を聞き、評価し、教授能力を高める。日本語教師グループが成立したことにより、日本語教師個人の負担が大きく軽減されたことは言うまでもない。

華棟高級中学は5年間におよぶ日本語教育の実践を積み重ねた結果、日本語教師に対する支援や質保証の対策が段階的に改善されている。一方で三中、九中、高専附中のような自力で日本語教育を行っている規模の小さい高級中学、またはこれから日本語課程を開設しようとする高級中学では、日本語教師の質保証に関して直面している課題がまだ多く、各方面からの制度的支援も少ないのが現状で

ある。

## おわりに

以上、陝西省榆林市を事例として分析したように、中国における高級中学日本語教師の養成・研修と質保証のシステムは、大学養成段階、入職前の教師資格の取得、就職段階の採用評価、入職後のトレーニング・研修の四段階に大別することができる。まず、大学養成段階では、教師としての教育に関する教授知識を学び、教育実習に参加し実践経験を積むとともに、国家教師資格試験を受験し、大学段階の養成成果を評価され教師資格を取る、という二段階を経て、入職前の教師の質を確保している。その後の就職段階では、採用側は各自によって募集基準を設置し、教師資格、資質や教授能力を審査するのが通例となっている。最後に、入職後の研修は主に教師募集組織による研修がある。以上の四段階で日本語教師の質保証システムは構成され、各要素が相互に影響し、相互作用していると言うことはできるだろう。しかし、調査の結果から見ると、大学養成段階における教育知識の学習と教育実習の機会は必ずしも保証されていない状況であり、国家教師資格試験の準備が日本語教師の教育知識の啓蒙機会になっているという実態があると指摘することもできる。そして、日本語教師の募集で定められている採用基準との一貫性はないものの、模擬授業を通して教師の教授能力は重視していることが分かる。一方、教師の教育経験と学歴による教師の資格証に対する審査はそれほど厳しくなされていない。高級中学に日本語を設置した主な目的が、大学入学試験において英語の苦手な生徒がその代替として日本語を勉強し、より良い成績を取ることにあるため、日本語教師に対する「成績」への反映期待は高い。ところが、日本語の教師陣ほとんどが若い教師であり、教育知識と教授経験が少ない。教育派遣機関には豊富な経験をもつ日本語教師研修指導員がおり、研修シ

システムが比較的完備されているが、独自に日本語課程を開設している高級中学における日本語教師にとっては、経験豊富な日本語研修指導員と日本語教師の成長を支えるための日本語教師グループの組織化の必要性を切実に感じている。

要するに、榆林市の事例では、この5年間で高級中学日本語教育は少しずつ発展してきたものの、日本語教師に対する養成・研修のそれぞれの段階がまだ十分に保証されず、各段階間で緊密につながっておらず、体系的な日本語教師養成・研修のシステムがまだ形成されていない状態にあると言える。日本語教師の質を保証するには、それぞれの段階の教育・研修内容を充実させ、各段階の制度を統合的に考慮し、改善することが必要であると言えるだろう。

参考文献：

- 【1】 国際交流基金 web ページ, 「日本語教育, 国・地域別情報」(2020 年度)  
[URL]<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2020/china.html>  
(2022 年 12 月 25 日閲覧)。
- 【2】 中華人民共和国教育部ホームページ『教師資格条例』実施方案  
[URL][http://www.moe.gov.cn/srcsite/A02/s5911/moe\\_621/200009/t20000923\\_180473.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A02/s5911/moe_621/200009/t20000923_180473.html) (2022 年 12 月 25 日閲覧)
- 【3】 中華人民共和国教育部ホームページ『中華人民共和国教師法』  
[URL][http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/sjzl\\_zcfg/zcfg\\_jyfl/tnull\\_1314.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/sjzl_zcfg/zcfg_jyfl/tnull_1314.html) (2022 年 12 月 25 日閲覧)
- 【4】 中華人民共和国教育部ホームページ『教育部教師工作司による小中等学校教員資格試験における「心理健康教育」等の学科増加に関する通知』(教育部教师工作司关于中小学教师资格考试增加“心理健康教育”等学科的通知)  
[URL][http://www.moe.gov.cn/s78/A10/tongzhi/201707/t20170712\\_309244.html](http://www.moe.gov.cn/s78/A10/tongzhi/201707/t20170712_309244.html)  
(2022 年 12 月 25 日閲覧)